

社会に生きる一員として



いろいろな顔がある
同じひとつの空の下
みんな一緒に
生きている
ともに生きる
この地球を
ともに生きる
この時間を
よりいっそう輝かせる
そんな一人の
担い手として



自由

いま、私たちがこの社会で生きていくうえで、ありとあらゆる自由が保障されているように見える。

では、自由とはいったい何なのだろう。

他人の指図を受けずに、好き勝手に振る舞えることが果たして自由なのだろうか。

権利に義務が伴うように、自由が私たちに求める何か大切なものがあるのではないか。

いま考えてみよう。自由の意味を、そしてその重さを。

自由は山巔^{さんてん*}の空気に似ている。どちらも弱い者には堪えることができない。

芥川竜之介『侏儒の言葉』

義務心をもっていない自由は本当の自由ではない。

夏目漱石『私の個人主義』

自由は責任を意味する。だからこそ、たいていの人間は自由を怖れる。

バーナード=ショー

*山巔=山の頂上